

遅めの穂肥で暑さに備える稲姿に！

今年の夏も猛暑が予想されており、高温障害が心配されます。

対策として、穂肥を施肥することが重要となります。今回は、昨年高温障害が激しかった新潟県の事例を基に水稲における遅めの穂肥必要性を説明します。

○高温障害が激しかった

昨年は高温が長く続きました。そのため、昨年の玄米中のタンパク質含量は、例年と比べてかなり低くなりました。肥切れして高温障害に遭遇したことが原因です。

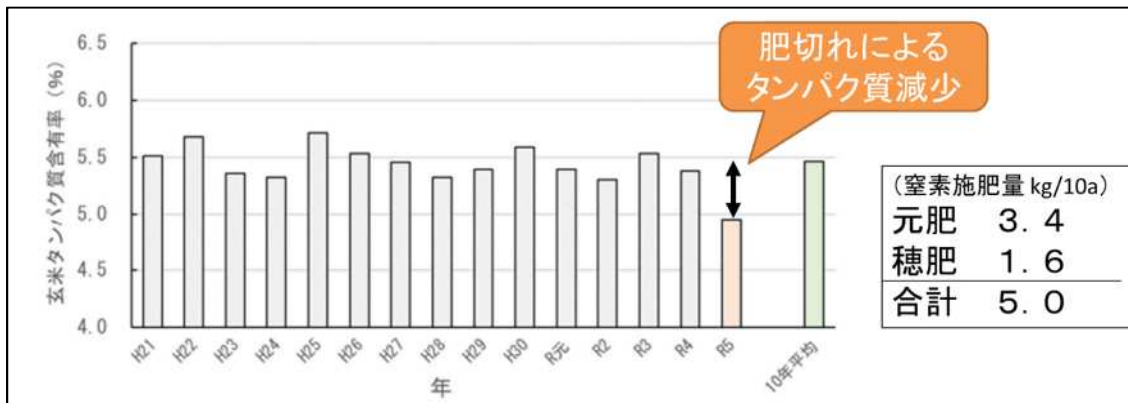


図-1 コシヒカリ気象感応穂（地域調査ほ）の玄米タンパク質含量率の推移
(新潟県資料より抜粋)

(玄米中のタンパク質含量が低い原因)

- ・倒伏防止を考慮し過ぎて施肥量が少なかった
- ・食味向上を目的に出穂直前の穂肥や実肥を控えた
- ・7月下旬～9月上旬 高温・干ばつ状態
平均気温27℃以上で45日間降雨無し



- ①玄米中の外観品質低下（背白粒、胴割粒など）
- ②整粒歩合・等級の低下（2等米・3等米が多発）
- ③千粒重低下による収量低下

タンパク質含量が低いと肥切れ状態

○出穂直前の穂肥が必要な稲姿と穂肥の施肥量

高温が続く場合は肥料消費が速いため、タンパク質も低下しやすくなります。肥切れが気になる場合は、出穂10～3日前に遅めの穂肥を施肥しましょう。

品種	肥料名	施肥量	施肥時期
倒伏しやすい	コーボしき島・九重9号	10～15	出穂10日前～出穂3日前 (走り穂が見えるまで)
	多木V化成	7～10	
倒伏しにくい	コーボしき島・九重9号	20	
	多木V化成	10～14	



【公式 YouTube チャンネル（肥料の寺子屋）】 チャンネル登録をお願いします。

ホームページ <https://www.takichem.co.jp/> メールアドレス aguri@takichem.co.jp

多木化学(株)アグリサービス室 財家 脩